

学習院大学
国際交流センター

Centre for International Exchange

News Letter

vol. 19
April 1, 2007



Studying Abroad: Be Prepared!

国際交流センター運営委員
外国語教育研究センター教授

フィリップ・ブラウン

WHEN I WAS A CHILD I was a keen member of my local Boy Scout troop. In my little town there wasn't much to do after school (thankfully, there were no *juku* where I grew up), and I used to enjoy the evening games and activities, where among other things we learned how to read maps and use a compass.

These skills were put to the test when we set off into the countryside one summer on an expedition. Armed with only a map and compass - and with no adults to help us - we had to find a way through a huge forest to the campsite where we would stay for the next few days. Once we reached the campsite, we had to make a fire for cooking, gathering birch-bark and pine logs from the forest, and then cook our own food. It was a wonderful adventure for an eight-year-old boy, and those childhood experiences have left me with a great love for nature and for exploring wild places. Indeed, I still look forward every year to my summer hiking trips in the Japanese mountains.

A student planning to study abroad is not so different from a young boy getting ready for his first wilderness trip. To make sure that the experience is enjoyable and rewarding, you have to make sure that you are fully prepared before you set out, acquiring the necessary skills - which in the case of a Japanese student of course means *language* skills. A lack of suitable preparation will only cause you problems, some of them serious.

If you're thinking of going to an English-speaking country, for example, you need to read as much as you can beforehand, in English, in your chosen subject. You must also take as many university English classes as you can, to improve your writing ability, brush up your grammar, and increase your vocabulary. Another good way to develop your academic English skills is to take IELTS classes outside university.

When you study abroad you will need to use English socially as well as academically, which means you will have to improve your listening and speaking abilities. Here, self-study is even more important than attending classes, for learning a language, like any skill, takes time, and you need to put in the hours.

Thanks to modern technology learning a language by yourself can be fun - it's not just a matter of memorizing word lists and taking multiple-choice tests. MP3 players, for example, allow you to listen to your favourite music almost anywhere, and if you don't have the lyrics to your favourite English-language song you can usually find them on the internet - just 'Google' the artist's name, song title, and a few words from the song.

(次頁へ続く)

To build up your reading skills, read as much as you can. Many English students nowadays enjoy Graded Readers, interesting books designed especially for learners, which can be read quickly. Find your level, and try to read one or two books a week. Many Graded Readers come with a CD, which means you can practice your listening too.

Watching movies is another great way to improve your English, and DVDs allow you to watch in a number of different ways. Watching a foreign-language movie with Japanese subtitles might be fun, but it won't do much for your language skills. On the other hand, turning the subtitles off usually makes it too difficult to understand, especially at first. Instead, look for DVDs which have English (as well as

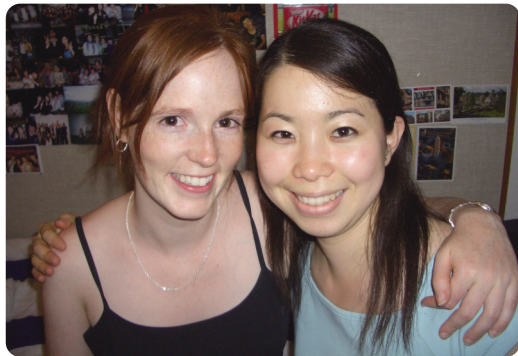
Japanese) subtitles, and try watching and reading at the same time. Your reading speed will improve, as well as your listening ability. You will also become more familiar with idiomatic English.

Whichever method you choose, plan ahead and study hard for as long as you can before you leave Japan. The more you study beforehand, the better you will be able to cope with the many challenges that you will face abroad. No matter how old you are, it's worth remembering the Boy Scout's motto, which the founder of the Scouts, the English soldier Baden-Powell, made by using his initials: Be Prepared.

協定外留学体験記

J'adore l'Alsace (大好きなアルザス)

フランス文学科3年 岡田 陶子



▲一番の理解者であったカナダ人の親友と

まず初めに、フランスに対する憧れを持っている日本人は多いですが、「フランス＝パリ」とイメージしている人も少なくないのではないのでしょうか？日本と違いフランスは色々な国との国境に接しているため、地方によって全く違った特徴を持っています。私が2005年9月から1年間留学したストラスブール（アルザス地方）はドイツまで車で約20分という、まさにドイツとの国境に位置する街であったため、食事や言語、建物など多くの分野においてドイツの影響を受けていました。もちろんパリも素敵な街ですが、足を伸ばして地方都市へ行ってみると、フランスの新たな一面を知る事が出来ます。

次に、私が通っていた語学学校についてお話ししたいと思います。当時は学習院大学の協定留学プログラムにフランスの大学が無かったため、私は「ストラスブール＝マルク・ブロック大学」に付属する語学学校に通いました。主に午前中はフランス語の授業で、午後は文化や政治、文学などのオプション授業でした。先生方に恵まれ、1年間本当に良い授業を受ける事が出来ました。しかし語学学校であるため、先生以外はもちろん外国人。その事で語学学校への留学をためらう人も居るのではないのでしょうか？そこで私がお勧めするのは寮またはホームステイです。気楽だからと一人暮らしをする留学生がたくさんいましたが、フランス語力を高めるためにはフランス人達の生活に入るのが一番です。日本語においても同じ事が言えますが、学校で学ぶフランス語と日常生活において話されているフランス語は少し違います。親しい間柄でしか用いられない単語や若者が使う流行の言葉などは、やはり実際にフランス人と話してみないと知ることが出来ません。

私が住んでいた寮はフランス人学生が9割を占めていたため、常に会話はフランス語で、大学生活、政治、人気な映画や音楽、美味しいお店など多くの事を教わりました。食事を終えてもテーブルから離れず、夜遅くまで話に夢中になる事もしばしばありました。

そして1年間私を支えてくれたのは知り合いのフランス人家族でした。食事の時もテーブルの上に辞書を置くほどフランス語が話せなかった私に、常に親切にして下さり、私が理解出来ないと何度も繰り返し説明してくれました。特に思い出に残っているのは共に過ごしたクリスマスです。大きなみみの木を買い、家中に飾りつけをし、ツリーの下にはたくさんのプレゼントが置かれるのです。そして当日は家族全員で教会のミサに行き、豪華で楽しいディナーは日付が変わるまで続きました。また、私が連れて行ってもらったアルザス地方の「クリスマス市」はとても有名で、フランス中から多くの観光客が訪れるため、クリスマス期のアルザスは一年で最も活気付いていると言っても過言ではないでしょう。

最後に、フランス語力を高めるために留学した私でしたが、やはり1年間を通してフランス人の生活を体験出来た事、フランス人や他の留学生と知り合えた事が私にとって何よりの宝となりました。この経験をこれからの将来にぜひ繋げたいと思っています。



▲寮で知り合った友人とのお別れ会にて

お元気ですか、センパイ!?

各方面で活躍中の卒業生を紹介する新シリーズを始めます。第1回目は、東南アジアの国、インドネシアで活躍する先輩を紹介します。

在マカッサル日本総領事館 副領事
松岡 晶子

私は、2003年に法学部政治学科を卒業し、同年インドネシア語の専門職員として外務省に入省しました。入省後最初の一年は、アジア大洋州局南東アジア第二課に配属され、その後2004年の夏より語学研修のため、インドネシア、ジャカルタに外交官補として赴任しました。ジャカルタでは国立インドネシア大学大学院において、国際関係論の修士課程を履修しました。昨夏に二年間の研修が終了し、2006年7月より、スラウェシ島マカッサルにある、日本総領事館の副領事を拝命しました。現在、広報文化と経済協力の仕事を担当しております。広報文化の仕事としては、茶道デモンストレーションやアニメ祭を開催して日本文化を紹介する、和太鼓公演を招致するといった仕事、国費留学生の選考等を行っています。経済協力の仕事は、草の根無償資金協力と言われる、インドネシアでも最も貧しい層の生活向上のための小規模援助を担当しております。また、これまでに天皇皇后両陛下のサイパン御訪問やシンガポール御訪問、小泉総理のインドネシア訪問といった要人外国訪問の仕事にも携わりました。

私が派遣学生として、オーストラリアの首都、キャンベラにあるANU(Australian National University)に留学したのは、2年生の終わりでした。私は以前マレーシアに住んでいた事もあり、東南アジアについて深く学びたいと思い、アジア研究で世界的に有名なANUを留学先に希望しました。ANUでは、アジア研究学部在籍し、東南アジア政治、インドネシア語等の科目を選択しました。

留学中は、キャンパス内の寮で生活し、授業やレポート、少人数のチュートリアル(ゼミ)のための準備などに日々追われ、勉強が中心の生活でした。平日は夜遅くまで開いている図書館で勉強漬けの毎日でしたが、週末は寮ごとにあるパーティーに参加したり、シドニーのビーチまで遊びに行ったり、思う存分遊んだ印象が強いです。今振り返

ても大変メリハリのある生活ができたと思います。また、寮生活を通じて、世界各国から学びに来ている友人達もたくさん出来て、いつも助けてもらいました。

ANUは勉強するための環境、特に外国人学生に対するサポートシステムがとても充実しています。授業で分からない部分があっても、Study Skills Centerでカウンセラーが相談に乗ってくれます。また寮にはフロアごとにメンターと言われるお世話係の上級生がいて、勉強面と生活面の両方で色々面倒を見てくれて、何度も助けられました。

留学した年に、シドニーオリンピックが開催されたので、私はボランティア・スタッフとしてオリンピック委員会に採用され、日本代表のサッカーの試合に携われたのもとてもいい思い出です。

ANUで学んだ語学力、新しい環境に対する適応力そして様々なバックグラウンドを持った人とうまくやっていく柔軟性は、今の仕事にとっても活かされていると感じています。また、一昨年、インドネシアの大学院に在籍中、論文の資料集めのため、2ヶ月間再びオーストラリアに行かせて頂く機会がありましたが、そうした時などに、協定留学中に培ったANUの人脈がとても役に立ちました。

素晴らしい留学生活が出来たことも、そして留学経験がその後の仕事に活かされたことも、すべて留学の機会を与えてくださった学習院大学、そして国際交流センターのお陰です。心から感謝しております。

学習院は、協定留学制度や語学の授業が充実していて、意欲がある方にはとても恵まれた環境だと思います。後輩の皆さんには、そうした環境を活かして是非充実した学生生活を送って将来に繋げていただきたいと思います。



▲日本政府の援助による村初の公衆トイレ前面にて

世界の国からいただきます。

スロバキア編
Kysnutý Orechovník
キスヌティエー オレコブニーク

キスヌティエー オレコブニークは、スロバキアの伝統的な甘いパンのひとつで、あまり海外では知られていませんが、スロバキアにとって、また自分にとって、ふるさとの懐かしい味や匂いを思い起こさせる特別なパンです。私の祖母はこのパン作りの名人で、祭日や週末などには、庭で収穫した胡桃を使ってこのパンを焼いてくれました。

スロバキアでは、パンなど小麦粉から作ったものは一番重要な食べ物であったため、「パン」に関するスロバキア語がたいへん豊かです。現在でもそれぞれのパン屋はその店の特別なパンを作ります。特に甘いパンの作り方は家族で代々伝えられていました。

西ヨーロッパやアメリカなどのパンとの一番大きな違いは、本物のイーストと自然素材だけを使って作っている点です(アロマや着色剤など無し)。

●材料 (4ロール)

パン生地

固形生イースト—60グラム
温かい牛乳—1/2カップ
砂糖—中さじ1
ふるいにかけた小麦粉—6カップ
塩—中さじ1
砂糖—1/4カップ
バター—220グラム
溶き卵—3個
サワークリーム—1カップ

胡桃ペースト

ローストした胡桃—1キログラム
砂糖—お好みで
温かい牛乳あるいはクリーム—適宜
バニラ—少々

SLOVAKIA



コバチョバ ルシア

オックスフォード・ブルックス大学(イギリス)からの協定留学生

●作り方

- 1) 温かい牛乳に砂糖(中さじ1)とイーストを溶かして、二倍に膨らむまで暖かい所におく。
- 2) 小麦粉、塩、砂糖(1/4カップ)とバターを混ぜる。
- 3) 卵とサワークリームとイースト混合物を加えて、生地は凸凹のなくなるまでこねる(10分ぐらい:ねばねばしたら、もっと小麦粉を加える)。
- 4) 生地を四つに割って、一個一個直径30cm直径の丸い形に伸ばす。
- 5) 丸い生地の表面に溶けたバターを塗って、胡桃ペーストを塗る。
- 6) 生地をロール状にする。
- 7) ロールを、バターを塗った大きい焼き皿において、もう一度二倍に膨らむまで暖かい所におく。
- 8) オープン180度で35~40分ぐらい焼く。

ごゆっくりどうぞ Dobrú chut'!

募集人数が増えました！

学習院大学海外留学奨学金の募集について

本学では、留学費用を援助し、できるだけ多くの皆さんが留学のチャンスを得ることができるように、奨学金制度を設けています。これまで15名だった募集人数は、今年度から20名となり、よりチャンスが広がりました。平成19年度第2回目の募集については、4月下旬に国際交流センターで配付する募集要項をご覧ください。

応募条件：教授会等で留学が許可されているか、もしくは海外の大学へ出願中の者
奨学金額：1人50万円（給付）
募集人数：20名（年間）
募集日程：

年度	募集時期（応募締切）	応募対象者
19年度	第1回（終了）	留学期間が H19年 4月～H20年3月の者
	第2回（平成19年 6月）	および H19年10月～H20年9月の者
20年度	第1回（平成19年12月）	留学期間が H20年 4月～H21年3月の者
	第2回（平成20年 6月）	および H20年10月～H21年9月の者

※ただし、留学期間が①の者は第1回に応募するのが望ましい。

平成19年度大学院学生の 国外における 研究発表援助について

本学では大学院学生の研究活動支援の一環として、海外で研究発表を行う学生に対し、10万円を限度に、費用の一部を援助する制度を設けています。これまでは6月中旬を締切としていましたが、今年度より、12月に変更します。それに伴い、募集時期も変更となります。詳細は掲示、ポスター等でお知らせいたしますので、そちらをご覧ください。国際交流センターまでお問い合わせください。

国際交流センター ボランティア募集 および登録更新のお知らせ

国際交流センターでは、留学生対象のイベント（留学生懇親会など）の企画・運営のお手伝い、留学生の相談相手、短期ホストファミリーなどのボランティアを募集しています。（ただし、学部新1年生は、今学期の登録不可）興味のある方は、国際交流センターまで来室の上、登録手続きをしてください。

また、現・国際交流センターボランティアで、引き続き登録を希望する方は、4月末日までに国際交流センターにて登録更新の手続きをとってください。

フランスの大学へ 初の派遣学生を募集しました！

本学は現在フランスで2校目の協定校となるリヨン第二大学と協定書の調印手続きを進めています。それに先立ち、リヨン第二大学への派遣学生を募集しました。この秋には、フランスの大学へ初の協定留学プログラムによる派遣学生が誕生します。2008年度はあなたもぜひ挑戦してみませんか？

【リヨン第二大学の概要】

リヨン第二大学は、19世紀前半に設立されたリヨン大学の一部で、1969年末にリヨン第二大学として新たなスタートを切りました。ローヌ河岸にそびえ立つ校舎の他に、郊外のブロンにも、教室棟や研究室、劇場などを擁するキャンパスがあります。大学のあるリyonは、ローマ時代より栄えたローヌ・アルプ地方の中心都市で、映画発祥の地として、また、「星の王子さま」の作者サンテグジュペリの生誕地としても知られています。

1. 創立：1970年
2. 所在地：フランス リヨン市
3. 学生数：約28,000人
4. 学部：Anthropology and Sociology
Economics and Management
Law and Political Sciences
Geography, History, History of Art and Tourism
Languages
Humanities, Language Sciences and Arts
全6学部

News Letter vol.19

April 1, 2007

発行日/2007年4月1日

編集・発行/学習院大学国際交流センター

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL.03-5992-1024 FAX.03-5992-1025

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/cie/index.html>

●編集後記● 留学生と大相撲観戦に行ってきました。国際交流センターでは、女子大学の留学生センターと共催で、年1回、留学生向けの伝統文化芸能鑑賞会を実施しています。歌舞伎や文楽など、毎年異なる日本文化に親しんでもらっていますが、そのような時、いつも反省することがあります。日本人なのに、いかに日本文化についての知識が無いことか！以前留学生に「四股は何故踏むのか？」と聞かれ、しどろもどろになったことがありました。留学を志す皆さん、留学生は一人ひとりが小さな外交官です。留学先の国を理解することも大事ですが、日本についてもしっかり学んでから留学してください。意外な発見もあるかもしれません。

【平成19年度国際交流センター運営委員】

所長 早坂 信（外国語教育研究センター）
運営委員 MacGregor, Laura（法学部・外国語教育研究センター）
// Brown, Phillip（経済学部・外国語教育研究センター）
// 田辺 千景（文学部）
// 中島 匠一（理学部）
// 宮川 努（教務部長・経済学部）
// 荒川 一郎（学生部長・理学部）